

新成人たちの旅立ちに幸多かれ

ここがわたしたちの「ホーム」

大石与夢

友人たちの顔を見ていると、共に過ごした小・中・高時代のことを数多く思い出します。そして、それらの思い出と共に頭に浮かぶのは、本町の豊かな自然のことです。夏の強い日差しに、きれいな大井川の流れ。秋の紅葉に季節の移り変わりの早さを感じ、冬の寒さに自然の厳しさや家族・友人と共にいる温かさを感じ、春に校舎の窓から見える桜に、冬を乗り越えて自分自身が人間として、大きく成長できたと感じる事ができました。

今、わたしは町を離れて生活しています。古里を離れて実感するのは、四季の移り変わりを感ずることのできるありがたさです。それに気付かせてくれた古里川根本町を、これからも大切に思っています。わたしは中学、高校と野球に打ち込みました。その当時、監督から言われた心に残る言葉があります。「野球は人間の人間を、みんなで協力してホームに帰すゲームだからだ。そしてホームがある人間は強い。君たちは、この町とこのグラウンドがホームだ。いつでも帰ってきなさい。」わたしたちにとって、友人たちがいる場所、そして古里である川根本町こそがホームです。この自然豊かなこの町が、わたしたちのホームであるという心強さと感謝の気持ちを忘れることなく、それぞれが違う場所で、今後とも一層努力を続けていきます。

本日は、本当にありがとうございました。

特集の終わりに

晴天に恵まれた今年の成人式。会場にはとびつきりの笑顔があふれていた。久しぶりに会う友人同士やその親御さんと楽しそうに会話する姿、仲間同士で記念写真に興じるほほ笑ましい姿。温かな、和やかなムードが会場を包んでいた。

式が始まると一転、みな引き締まった顔を見せた。新成人の主張に真剣な表情で耳を傾け、恩師から贈られた心のこもったメッセージに瞳を潤ませた。

赤石太鼓を率いる中原康夫さんは演奏前、こんな言葉を新成人に贈った。「赤石太鼓の演奏は一人の力では成り立ちません。たくさんのメンバーがそれぞれ支え合い、助け合うことで迫力ある音が生まれます。これは人間社会でも同じこと。皆さんも、これから社会の一員です。支え合い、助け合う心を大切にしてい、歩いていってください。」

成人式は20歳を迎えた若者を町を挙げて祝福する場。それと同時に、新成人が大人としての自由と責任について自覚する場でもある。

社会の一員としてすでに歩み始めている人も、これから踏み出す人も、お世話になった人への「感謝」の心を忘れずに、互いを気遣う「思いやり」の心を忘れずに、大人としての「自覚」を忘れずに、それぞれが目指す目標へと歩んでいってほしい。

そしてまたいつか、この町で「とびつきりの笑顔の花」を咲かせてほしい。

新成人の皆さんに心を込め、精一杯のエールを贈ります。

旅立ちにエールを

a coming of age ceremony